

第4章 キリスト教の歴史

キリスト教の歴史 = 教会の歴史 (約2000年の歴史)

教会は神ではない。キリスト者も人間である。

あやまちを犯したこともある。

キリスト教の大きな流れ (現在)

- 巻末の「資料6: ヨーロッパ・キリスト教史略年表」参照 -

ローマ・カトリック教会 (旧教) 初代教会から継続

プロテスタント教会 (新教) 1517年10月31日、ルター「95カ条の提題」

ギリシア正教会 (オーソドックス) 1054年、カトリック教会から分離

教会に行っている人、行ったことのある人?

三つのどれかに属している。その他「新興宗教」、異端

1 カトリック教会の成立

(1) 初代教会

イエスの十字架後

(正確には、復活(三日目)、ペンテコステ(五旬祭、復活から50日目)のあと)

使徒言行録2章 「聖霊が降る」を参照

ペトロの説教 (使徒 2:14f.)

使徒 2:22

「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方(救い主)です。」

「イエスはキリスト(救い主)である」という信仰から始まった。

イエス・キリスト (p.50f. 参照)

イエス (イエスース 名前)

キリスト (クリストス 油をそそがれた者)

(へ)メシア イスラエルの王 解放者、救い主)

使徒 2:43f. 「信者の生活」

初代教会が形成されて行った。

ローマ帝国の迫害、弾圧 浸透

皇帝ネロ (在位54-68年)、ディオクレティアヌス (在位284-305年)

(2)ローマ・カトリック教会の成立

初代教会の形成（パウロの働き）

ローマ帝国の迫害、弾圧 浸透

迫害 皇帝ネロ（在位54-68年）

ディオクレティアヌス（在位284-305年）

公認 313年 コンスタンティヌス帝（在位324-337）

国教 392年 テオドシウス帝（在位379-395）

世界教会会議

ニカイア公会議（325年）

カルケドン公会議（451年）

キリスト教の基本的信仰箇条（基本信条）の成立

使徒信条（讚美歌 5 6 6）、ニカイア信条、アタナシオス信条

ローマ帝国の保護を得、主要なキリスト教の教義を確定

ローマ・カトリック教会が成立

ヨーロッパに拡大、発展して行った。

(3)中世のカトリック教会

395年 テオドシウス帝の帝国二分の結果、

西ローマ帝国（ローマが教会の中心） 476年ゲルマン諸族の侵入 滅亡

フランク王国と結びながら発展

東ローマ帝国（ビザンティン帝国）（コンスタンティノープルが中心）

1054年 東方の正教会（オーソドックス）分離 ギリシア正教会

1096-1291 十字軍（7回以上） 聖地エルサレム奪回計画 失敗

1309-1377 教皇のアヴィニョン幽閉（教皇のバビロン捕囚）

フランス国王フィリップ4世が教皇と争う。

教皇庁を南フランスのアヴィニョンに移し干渉。

1378-1417 シスマ（教会大分裂）

ローマに対立教皇がたてられ、アヴィニョンの教皇庁と対立

1453年 東ローマ帝国滅亡（オスマン・トルコがコンスタンティノープル占領）

ビザンティン帝国の人たち ギリシア、イタリアに逃亡

古代ギリシア文化が刺激となってイタリアでルネサンス運動開始

ルネサンス「源泉に帰れ」 宗教改革運動に影響

2 プロテスタント教会の成立

(1) 宗教改革 (the Reformation)

マルティン・ルター (1483-1546) カトリックの修道士・司祭

ローマのサン・ピエトロ大聖堂建設の為に免償状 (贖宥状、免罪符) 販売に強い疑問。

人間の魂の救いを金銭で売買することが出来るのか？

「賽銭箱に投げ入れられたコインがチャリンと鳴るやいなや、魂が煉獄からおどりだと説く者たちは、人間の道を説いているのである。」

「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による」(ロ-73:28)

1517年10月31日、ヴィッテンヴェルクの城教会

「95ヶ条の提題」を公表 (ラテン語)

- 免償の効力を明らかにするための提題 -

ルターの著作 活版印刷術 各地に広まる グーテンベルク (1400-1468) 印刷術

「信仰のみ」「聖書のみ」「万人祭司」 ドイツ語聖書出版 (1534)

新しい教派 (ルター派) の形成 北ヨーロッパ (ルウェー、スウェーデンなど) へ

プロテスタント (Protestant 抵抗する人の意) の最初の教会

ジャン・カルヴァン (1509-1564)

「恵みのみ」「聖書のみ」「長老制」「予定説」

「召命としての職業 (vocation) の労働」

フランス、ネーデルランド (オランダ)、イングランド、スコットランド等へ

フルドリッヒ・ツヴィングリ (1484-1531)

イングランドにおける宗教改革

ヘンリー 8 世 (在位 1509-1547)

離婚問題からカトリックとの分離を計画、「国王至上法」公布

1534年 イングランド国教会 (聖公会、Church of England) の成立

(2) カトリック改革 (対抗宗教改革)

1545年から18年間 トリエント公会議

プロテスタントに対抗 宗教裁判所 異端の弾圧

イグナティウス・ロヨラ (スペイン人、1491c.-1556)、イエズス会創立

厳しい戒律 布教・教育活動

海外宣教 フランシスコ・ザビエル、1549年、日本にキリスト教を伝える

(3) 宗教戦争

カトリック教会とプロテスタント教会の対立

16 - 17世紀にかけての宗教戦争（政治・経済的な利害の対立を含む）

オランダ独立戦争（1568-1609年）

フランスのユグノー戦争（1562-1598）

ドイツの30年戦争（1618-1648）

30年戦争後の「ウェストファリア条約」（1648）

信教の自由を保障（領主に対して）する道が開かれた。

3 近・現代のキリスト教

(1) 世界大戦までの教会

近代精神

批判的精神...物事を見直す（本当かどうか）

実証主義 ...実際に証明する（実証する）

合理主義 ...合理的かどうか

昔 - 天動説 コペルニクス - 地動説

進歩と発展への信仰

19世紀 近代科学の進歩と発展

聖書学の発展

神 - いる、いない（科学的には実証不可能）

信じている者には「いる」（信仰の事柄）

科学万能主義の時代 人間の幸福をもたらす（？）

第1次世界大戦(1914-1918) - 戦死者900万人以上

第2次世界大戦(1939-1945) - 4000万人以上の犠牲者

キリスト教の無力さ 反省

(2) 戦後の教会のあゆみ

ラインホルド・ニーバー（p.21）

祈り（変えるべきもの、変えられないもの）

識別する知恵

現代の問題

差別と人権の問題

南北問題

食料問題

環境問題

科学の進歩 - 工場 - 大気汚染（公害） - 酸性雨 - 食料問題
廃液 - 川や海の汚染 - 食料問題

核兵器や原子力発電などの核問題

1986年、チェルノブイリ原発事故

科学の進歩 - 必ずしも人間を幸福にするものではない。

エキュメニカル・ムーブメント（教会一致運動）

教派間の対立を越え、国家や階級や人種を越えて、教会が神によって与えられた共通の使命を果たすために、協力関係を築こうとする動き。

世界大規模の教会の再建。「世界に開かれた教会」

「世界教会協議会」(WCC) - 100以上の国から300以上の教会が加盟

カトリック教会（教皇ヨハネス23世召集）

第2ヴァティカン公会議(1962-1965) - 他教会や他宗教との対話と和解をすすめる。11世紀以来対立してきた東方の正教会と相互に破門を取り消し、和解を実現させた。

4 日本のキリスト教の歴史

(1)キリスト教の伝来とキリシタン時代

1549(天文18)年 8月15日

フランシスコ・ザビエル（イエズス会）鹿児島へ上陸

鹿児島、平戸、山口、豊後府内で布教

トルレス、オルガンティノ 教会、神学校、病院、孤児院等を建てる

豊臣秀吉、徳川幕府の「禁教令」 キリシタン弾圧 かくれキリシタン

(2)近代日本のキリスト教（開国から太平洋戦争まで）

1853(嘉永6)年 ペリー来航

1954(安政1)年 「日米和親条約」締結、ロシア・オランダとの条約

1858(安政5)年 「修好通商条約」(アメリカ、ロシア、オランダ、イギリス、フランス)

横浜、函館、長崎、新潟、神戸を貿易港として開港

1859年 5月 アメリカ聖公会 リギンズ

6月 チャニング・ムーア・ウィリアムズ

10月 長老派のヘボン

11月 改革派のブラウン、フルベッキ

8月 パリ外国宣教会の宣教師(ジラール) - カトリック

1858年 ロシア正教会(マーホフ)

1961年 ニコライが来日

プロテスタント - アメリカ系、カトリック - フランス系、正教会 - ロシア系

1873(明治6)年2月 キリシタン禁制が解かれる

1889(明治22)年 信教の自由(条件付き)

1862(文久2)年1月 横浜の天主堂建立(カトリック)

禁制解除後、孤児院、病院、養育院 - 救済事業、学校を開く

暁星学校(1888)、雙葉高等女学校(1909)、聖心女子学院(1910)、上智大学(1913)

ロシア正教会 - 初期の入信者(仙台藩士)

プロテスタント

横浜バンド(1872) - 植村正久

熊本バンド(1876) - 海老名弾正

札幌バンド(1877) - 内村鑑三

女子学院、フェリス女学院、横浜共立学園、立教学院など

1900年代 救世軍の山室軍平、長老派の賀川豊彦 貧民救済事業

(3)戦時下と敗戦後のキリスト教

日清戦争(1894-1895)

日露戦争(1904-1905)

太平洋戦争(-1945)

1925(大正14)年 治安維持法

1938(昭和13)年 国家総動員法

軍国主義

1939(昭和14)年 宗教団体法の成立

1941年 「日本基督教団」設立

1945(昭和20)年8月15日 ポツダム宣言受諾 - 終戦

戦後のキリスト教 - 反省の上に立って、世界の教会と手をとって働いている。

「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」(戦責告白)

1967年3月26日 復活主日 日本基督教団総会議長 鈴木正久

第5章 イエス・キリスト

1 イエスとキリスト

イエス・キリスト (Jesus Christ) ... 姓名ではない

イエス (Ihsou" イェ-ス-ス)

古代ヘブライ語の yeshua 何イ何イ豊久 (「神は救い主」ヨシュア) の発音をギリシア語に写したもの。ごく一般的に用いられた名前。

当時の習慣では、一般庶民には名字にあたるものはなかった。

父親の名や地名をつけて呼んだ。

例) ・ナザレのイエス (マルコ 1:24、10:47、14:67、16:6、

ルカ 4:34、24:19、18:37、ヨハネ 18:5、18:7、19:19、

マタイ 26:71、使徒2:22、3:6、6:14、10:38、22:8)

「イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった」(ルカ 4:16) マタイ2:23他

・イスカリオテ(ケリオテの人)のユダ(イエスを裏切った者)(マルコ 3:19)

・ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ(マルコ 3:17 - 12弟子表)

・アルファイの子ヤコブ(マルコ 3:18)

キリスト (Cristov' クリストス)

ヘブライ語の masiah (マシーアハ(「油をそそがれた者」メシア

イスラエルの王 解放者、救い主)の意味をギリシア語に翻訳したもの
イエス・キリスト 「イエスは救い主である」というキリスト教の信仰告白

「このイエスによって神の福音(喜ばしい知らせ)がもたらされた、イエスを通して主なる神が世界に救いを約束した」という信仰こそがキリスト教にとっての最も中心的な事柄。

世界に対する神の救いの約束 聖書に示されている(旧約・新約)

旧約聖書 (Old Testament(遺言、誓約、あかし、信条、告白))

新約聖書 (New Testament)

聖書より重要なものはキリスト教にはない。

聖書 = キリスト教の規準(カノン Canon) = 正典

聖書 プロテスタント教会(旧約39書、新約27書、計66書)

カトリック教会、聖公会

外典(アポクリファ)新約聖書以前の諸文書を

第2正典、旧約聖書・続編と呼んでいる。

2 イエスの生涯

福音書...イエスの伝記ではない(史的イエス)

イエスがキリストであることを証言し宣教することが目的
(宣教のキリスト)

イエスの人生

名 前...イエス

父の名...ヨセフ 母の名...マリア

生年月日...記述なし

ユダヤ王ヘロデ(位B.C.40 - 4年)の末期(B.C.7 - 4年頃)

出生地...記述なし

ユダヤのベツレヘム

居住地...ガリラヤ地方のナザレ

兄 弟...数人の兄弟と姉妹

学 歴...記述なし

シナゴーク(会堂)の礼拝に出席、律法を学ぶ

職 業...大工

結婚歴...記述なし

信仰歴...ユダヤ教徒。30歳前半の頃、バプテスマ(洗礼者)のヨハネから洗礼を受ける。

荒野の修行ののち(40日間の祈りと断食)、

弟子たちを伴い、ユダヤ各地を巡回(ガリラヤ地方を中心)、
悪魔払いと説教を行う。

宣教の第一声

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:1)

5)

イエスの言葉と行いによる宣教の内容の要約

「主はわたしに油を注ぎ、主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして、貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み、捕らわれ人には自由を、つながれている人には解放を告知させるために。」(イザヤ 61:1)

「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、らい病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」

(マタイ 11:5-6)

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)

イエスの宣教 - 虐げられていた民衆、差別に苦しんでいた罪人に受け入れられた。

ファリサイ派と衝突、サドカイ派からは危険人物とみなされる
ローマ権力の打倒とイスラエルの独立を願っていた民衆からも見放され、
イスカリオテのユダの裏切り、エルサレムで逮捕。

ユダヤ教の最高権威者であった大祭司カヤパとローマのユダヤ総督ピラトの裁判を受け、ローマ皇帝に対する反逆者として、エルサレム郊外のゴルゴタの丘で十字架刑で処刑(紀元30年頃、イエス30歳の半ば)
没年月日...ローマのユダヤ総督ピラト(ポンティウス・ピラトゥス、26-36年)
の時、エルサレムで過越祭の期間に
死 因...ユダヤ総督の命令による十字架刑
埋葬場所...エルサレム

12弟子

イエスの復活 - 弟子たちに福音の宣教を命じた。

「あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28:20)

イエスの生涯(2)

イエスの宣教開始 およそ30歳の時 ルカ3:23 (P.106)

イエスの宣教

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ 1:15)P.61

「悔い改めよ。天の国は近づいた」(マタイ 4:17) (P.5)

神の国(天の国)について

神の支配、主権

「神の国は、見える形では来ない」 (ルカ 17:20以下) (P.143)

「ここにある、あそこにある」と言えるものでもない。」

「実に、神の国はあなた方の間にあるのだ」

神の啓示としてのイエス (ヨハネ 14:1 以下) (P.196)

「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」(ヨハネ 14:6)

「私を見た者は、父を見たのだ」(ヨハネ 14:9)

イエスの業(行い)、説教

大勢の病人をいやす (マタイ 15:29以下) (P.30)

山上の説教 (マタイ5章 - 7章) (P.6)

わたしのもとに来なさい (マタイ 11:25) (P.20)

旧約聖書の預言

メシア(キリスト)預言

イエスによって成就 (イザヤ 61:1) (P.1162)

「そのとき」(メシア到来のとき) (イザヤ 35:5-6) (P.1116)

洗礼者ヨハネとイエス (マタイ 11章) (P.19)